

リニア中央新幹線：トンネル残土について、何を問題としているのでしょうか？

分類	No	問題点・指摘事項	候補地 A=健全土 40 万 m ³ (平場 6ha/全体 16ha)	候補地 B=要対策土 20 万 m ³ +健全土 30 万 m ³ (平場 7ha/全体=7ha)
残土を置いて、住民が「安全」で「安心」して「暮らせる」権利が保障されるのでしょうか？	1	地震・豪雨による地すべり (滑動崩落) が永久に発生しないとは、誰も保証できません。花崗岩はやがて崩れやすい真砂土となり、可児川を埋め尽くすと推察。 林地開発法の手引きに従った盛土は 100 年 200 年に 1 度の大雨に耐え得るでしょうか。 (下流域の住民生活に、脅威となるような埋立ては許されません)	高さ 85m に積上げる残土 (40 万 m ³) の脅威。 ①豪雨や東南海地震 (想定 M8) による地滑りの恐れが発生しないか、排水管のチェック (目詰まり) など、管理方法が具体的に示されていません。 ②そもそも大量のトンネル残土は山全体の重量バランスを崩し山体崩落のリスク。下流に住む住民にとっては大きな脅威。とりわけ候補地 A 直下に暮らす住民 (次月) の脅威は永遠に続き、残土が可児川の狭い谷間を堰き止めた場合、上流の次月住民は安心して暮らせません (標高差 30m)。	高さ 40m に積上げる残土 (50 万 m ³) の脅威。 ①傾斜は候補地 A より緩やかだが、大量の残土 (要対策土) は山全体のバランスを崩し、豪雨が降れば山体崩落が危惧されます。下流には美佐野地区の住民が数軒居住されています。 ②有害重金属を含む大量のトンネル残土が木屋洞川から可児川へなだれ込めば、有害金属による水質悪化は大きなリスクとなります。 (下流域住民の田畑、地下水、生物濃縮された農作物)
	2	検査方法は適切か (1,000~1,500m ³ /日) ①検体採取：検体採取不足 (&位置) =5p ②検査：検体 5p を混合し、試験は 1 回。 ※5 地点均等混合法 一般社団法人土壌環境センター 埋め戻し土壌の品質管理指針「自然地盤の土壌 (改定版)」	左記の試験法から得られた結果により、単純に区別された「健全土」は本当に健全でしょうか？ これで「候補地 A」付近の井水から、水質基準値を超える有害金属が検出されない保証はありますか？ ①JR 東海から提示された方法は、「酸性雨 (基準 pH5.6 以下→2017 年平均 pH4.8 環境省)」の影響が考慮されてません。 ②検査方法 (5 地点均等混合法) の改善及び酸性雨の影響が考慮されなければ、候補地 A の残土は「要対策土」になる恐れがあります。 ※下流域住民の健康リスク (御嵩町、可児市、愛知県：飲料水、農作物、動植物への影響)	
	3	要対策土を包む二重遮水シートについて ①二重遮水シートの耐久性・耐酸性 (FeS ₂) シート経年劣化、接着面の強度低下、工事中の重機によるシートの加圧破損 ②健全土を含め要対策土付近の地下水から有害金属が検出された場合、JR 東海の方法では直ちに原因を究明 (場所の特定、破損の程度) する方法がありません。 ③県内には御嵩以外に 59 カ所もの受入れ候補地があり (2,300 万 m ³)、町内産出量 90 万 m ³ は御嵩町以外で充分対応可能。	①健全土周辺地下水から基準を超える有害金属が検出された場合、どのような対応を講じるのか説明されてません。 (有害金属を検出してからの対応では遅い) 遮水シートについて ①管理上、破損箇所を特定する設備が必要 ※電気式漏水検知システム:漏洩電流式漏水検知法 ②破損が発見された場合、要対策土は直ちに撤去して頂けるのか不明	①「二重遮水シート」は東南海地震 (想定 M8) に耐えられますか？ ②工事施行中の遮水シートの破損は発見不可能。 ③遮水シートが破損し、雨水が侵入～漏水しても発見できません。発見した時点では既に地下に浸透し、対策は後手に回ります。 原因が遮水シート破損と判明した場合、どのように対応されるのか、具体策が示されてません。 ④有害金属を含む水が下流域に流れた場合、JR 東海はどう対応されるのでしょうか？ 「可児川の水で希釈されるから大丈夫」という JR 東海発言は不謹慎です (次月説明会)。

分類	No	疑問・問題点・指摘事項
環境保全	4	<p>①環境省から「重要湿地群」に指定(H28=2016年)されるほど絶滅危惧種の多い山城(美佐野工区:全58種=植物、鳥類、昆虫、両生類)。木屋洞川~押山川に挟まれた地域は、町内最大のハナノキ群生地で岐阜県内でも5番目に大きい群生地です。中津川、恵那と異なる遺伝的多様性を持つハナノキ自生地であることや、ミゾゴイ・サシバをはじめ希少動植物の宝庫であることから保全活動が必要と考えます。</p> <p>JR東海提案の保全方法(移植)は、移植先で根付いてくれる保証もなく、また希少種はハナノキだけではありません。候補地ABに降る雨水を排水管で素早く下流に流せば、残された谷間の湿地は失われると予想され、この山城の開発行為(埋立て)は中止することが適切と考えます。</p> <p>②御嵩町は「美佐野ハナノキ湿地群」が環境省による「重要湿地群」に指定された事を昨年発覚するまで6年間隠蔽。「環境モデル都市」は低炭素化社会実現のための取り組みですが、その中には「環境教育」や「持続可能な森林管理」が含まれます。全国でも数少ない環境モデル都市に指定された御嵩町、隠蔽することなく未来を担っていく子供たちのために積極的に湿地保全活動に取り組んでいただきたいと願う次第です。(重要湿地をトンネル残土で埋め立てて良いものか、もう一度立ち止まって考え直していただきたい)</p> <p>③この湿地を埋め立てることは、COP15で定めた国際目標「2030年までに国土の30%湿地を確保=30by30」に真逆な行為。美佐野ハナノキ湿地群は様々な学術団体からも注目されている地域です。そういった面からも考え直す良い機会です。</p> <p>④JR東海の「環境影響評価書 事後調査報告書(R4.6版)」・・・あまりにも内容が薄く、今後もこのような報告書では開発に同意できません。</p> <p>1. 水資源: 水位、水温、pH、電気伝導率、透視度 2. 地盤沈下: 地盤高 初期値との差mm(要注意30mm、警戒50mm)→安定と結論 3. 動物: オオタカ、ハチクマ、サシバ 4. 植物: カザグルマ、エンジュウム・ヨウラン</p> <p>※次月自治会は御嵩町に対し、①御嵩町版「環境基本条例」、②御嵩町版「希少野生生物保護条例」を遵守し、白紙撤回を要望(2022.01.13)。</p>
放射性物質(ウラン・ラドン等)	5	<p>①JR東海は、動燃が実施したボーリング調査データ(図面)から「リニア中央新幹線はウラン鉱床を避けて通過するので、ウランは出ません」と説明されますが、ウラン鉱床を避けて通過してもリニアルート上の根拠となるデータを十分に示さず、これでは住民は納得できません。</p> <p>6.7kmの工事区間をわずか4カ所のデータで安心できますか?</p> <p>②1日1回のウラン計測結果を信じて、安心できるでしょうか?</p> <p>ウラン鉱床に囲まれた大量のトンネル残土を、「健全土」や「要対策土」として美佐野の重要湿地に置かれては、住民は安心できません。永久にラドンガスが放出され続けたら、風下の住民はその脅威にさらされ続けます。そもそも放射性物質はウラン、ラドンだけ調査すれば大丈夫でしょうか?</p> <p>③万が一基準値(1Bq=77μg/g)以上の土壌を掘り出した場合、どのような体制で、どこへ運び出すのか納得のいく説明がありません。</p> <p>※ウラン埋蔵量: 人形峠(岡山県/鳥取県)=1,945ton(基準)、東濃地区=4,590ton(2.36倍)</p>